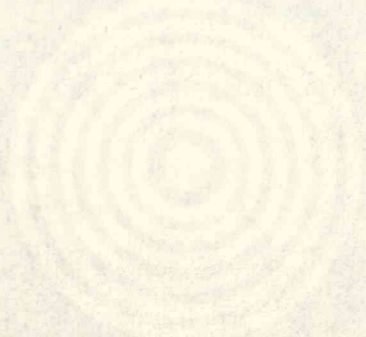
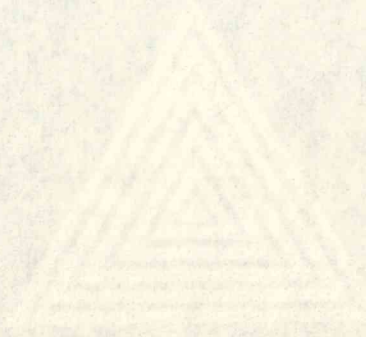


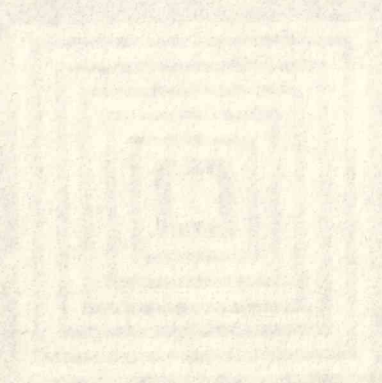
1998年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画



1988年
講義計画



東京大学出版会

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米文学特講Ⅱ (二十世紀のハムレットⅠ)		通 期	4 単位	小 野 良 子
[講義概要・学習目標] シェイクスピアの四大悲劇のひとつ、「ハムレット」を取り上げて、二十世紀の映像の中で再創造される「ハムレット」について考察する。 文学作品の解釈方法には、例えば日本の文学で有名な「テキストの精読」や、代々の大学で授業の予習、あるいは課題として行われる「観劇」による舞台分析批評など、作品の受容形態の可能性や限界に依り、様々である。元来、演劇は上流階級を目的とする総合芸術であり、そのため「書かれたテキスト」の分析に終焉するのではなく、「舞台」空間で「演じられたテキスト」を目と耳で体験することが重要である。 本講義では映像の「ハムレット」を三本取り上げて、I.「ハムレット」の人物像、II.「ハムレット」の劇の主題と構造、について比較検討する。	[講義計画] (1) 映画鑑賞 ロイス・ウィリアムズ主演の「ハムレット」、 ミル・ギブソン主演の「ハムレット」、 トム・スワップ作、演出の「ロゼンクランツとギルデンシュタインの死んだ」 (2) 作品の分析と討論 各講時、グループに分けて分析、討論。その後全席討論 (3) 小レポートの作成と提出 各受講者が作品に関して小レポートを作成。 注意：開講(1998年春)前に、必ず「ハムレット」(日本語訳版)を読んでおく。			
[成績評価の方法] (1) 毎講時に提出するレポート 60ポイント (2) 前/後期末のレポート(計二本) 40ポイント	[参考文献] (1) 笹山隆 編、「ハムレット 読本」、岩波書店。 (2) 成田 龍雄、「シェイクスピアと現代演劇」、南雲堂。 (3) L. イバル、「ロゼンクランツとギルデンシュタインの死んだ」、高橋康成/大橋洋一訳、朝日出版社。			
[教科書] (1) シェイクスピア、「ハムレット」(版は特に指定しない) (2) トム・スワップ、「ロゼンクランツとギルデンシュタインの死んだ」(『今日の英米演劇』第5巻、白水社、1988年収録)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語学講読		通 期	4 単位	萬 戸 克 憲
[講義概要・学習目標] この講義では、言語学を学ぶことの楽しさを伝えるとともに、日常の言語の使用ではあまり気付かれることのない規則体系としての言語に、分析的にアプローチできる態度を養いたい。なお、論文の英語になじめるよう学生には事前に項目を割り当て、その発表を主体に授業を進めていく。言語学で用いられる専門用語はその都度学習していく。 言語学はどちらかというと取りつきにくい学問であるが、興味を持たせるために、第5章の「言語の習得」からはじめて幼児がどのように言語を習得していくかを考え、その後各章を学習する。	[講義計画] <前期> Chapter 5. Language Acquisition: The Emergence of a Grammar Chapter 1. Language: A Preview <後期> Chapter 2. Morphology: The Analysis of Word Structure Chapter 3. Syntax: The Analysis of Sentence Structure Chapter 4. The Analysis of Meaning			
[成績評価の方法] 出席、発表などの授業への参加度を40%、期末考査を60%。 なお、発表を割り当てられたときは責任をもって行うこと、難しくても徹底的に取り組む姿勢が大事である。	[参考文献] J.C. Richards, J.Platt & H.Platt <i>Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics</i> (Longman)			
[教科書] W.O.Gray & M.Dobrovosky <i>Contemporary Linguistic Analysis I</i> (Newury House/Shohakusha)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米文学講読		通 期	4 単位	谷 本 泰 三
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>愛、喪失、孤独、癒し、これら古典的な問題を現代のアメリカ作家たちほどのようにして作品化しているのか。William Faulkner 他 現代作家の作品を読みながら、このことを検証してみる。 時間をかけてゆっくり正確に読む訓練をする。受講生それぞれが作品のなかに問題を見出して欲しい。受講生それぞれの受取りかたを尊重するけれども、それはテキストの確実な読みを支えられた、納得のいく結論となるような指導をする。確実に、誠実に予習をして教室に入ること。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期 William Faulkner "That Evening Sun"</p> <p>後期 Raymond Carver "Boxes" Tobias Wolff "Say Yes" Alice Walker "Fame"</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験2回</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指示する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
応用英語講読		通 期	4 単位	Kathryn L. マルヤマ
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>This class will be a reading/discussion class, with it's main focus on topics of current global importance. It will develop the students' skills and techniques in reading both academically and for pleasure. In addition to the main text, some supplemental materials will be supplied, and students will be required to do some independent reading outside of class. <i>This is a good class for students who wish to study more about international issues and to develop their speaking ability.</i> Students will be required to participate fully in class discussions, and strict attendance is required.</p>	<p>[講義計画]</p> <p>In the <i>spring</i> term we will work on building the basics skills of pre-reading, skimming, scanning, dictionary use and non-use, summarizing and evaluating the content of readings. Speaking skills that we will focus on are summarizing others points, giving your own opinion, and questioning others.</p> <p>In the fall term we will expand the reading techniques covered to include the use of marginal notes, and to work on building students' reading speeds, while continuing to use the techniques studied in the spring. In speaking, we will work on using arguments from the readings to refute or support opinions given in discussions.</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>Grades will be based on:</p> <ul style="list-style-type: none"> • class participation • reader's journal and other written homework • extensive reading 	<p>[参考文献]</p> <p>Other necessary materials: a GOOD English-Japanese dictionary</p>			
<p>[教科書]</p> <p>text:</p> <p><u>Planet Problems</u> by S. Yamamura and K. Macdonald (Seibido 成英堂)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
聖書研究		通 期	4 単位	滝 澤 武 人
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>文字通り『聖書』を読んで研究することがこの講義の目標である。『聖書』には「旧約聖書」(39巻)と「新約聖書」(27巻)の合計66巻のさまざまな文書が含まれている。それらは古代ユダヤ民族が残した人類全体の大きな知的遺産・古典であり、今日においてもなお文学・歴史・思想・宗教など人間の根本問題に対して新鮮な光を投げかけている。</p> <p>今年度の講義は、前期に「旧約聖書」(特に「創世記」)、そして後期に「新約聖書」(特に「マルコ福音書」)を、「人間の生きざま」に焦点をあてながら読みすすめる予定である。聖書に登場するさまざまな人間の生きざまは、キリスト教やユダヤ教の枠を越えて、現代世界に生きる多くの人々に大きな感動を与えることになるであろう。もちろん、大学という場においては、学問的な研究成果を土台として『聖書』を読むことになる。真面目な学生諸君の主体的な受講を期待している。なお教科書として指定した『聖書』必ず毎時間持参すること。</p>	<p>前期(旧約聖書より)</p> <p>アダムとエヴァ、アブラハム、ヤコブ、モーセ、ダビデ等</p> <p>後期(新約聖書より)</p> <p>主としてイエスについて</p> <p>およびイエスをめぐる人びとについて</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
試験(前期・後期)、レポート、感想文、受講姿勢などを総合的に評価する。	その都度指示する。			
[教科書]				
新共同訳『聖書』(日本聖書協会)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅲ (旧日本語教育実習)		通 期	2 単位	友 沢 昭 江
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を総合して、実際の教育の場面で学習者とどのようなインタラクティブを行うかという、実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに効果的に提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題をどのように処理するかを、実際の授業形態の中で学びます。そのため、日本語教授法Ⅰおよび日本語教授法Ⅱを終了した人に基本的に受講を認めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見ること等を通して比較検討します。 ・グループに分かれて、基本的な教授内容をいかに実際の教育現場で教えるかを研究し、発表します。 ・グループ単位で、実際の授業を組み立て、模擬授業として発表します。 ・留学生とチームを組んで、共同プロジェクトを行います。 ・実際の日本語授業を見学したり、夏期休暇中には学外での教育実習を行います。 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<ul style="list-style-type: none"> ・学期初めにノートを作り、毎回の授業の内容をまとめる外、適宜出される課題もそこに書き込み、一カ月に一回程度の割合でノートを提出してもらい、それを出欠材料として判断します。 ・グループ単位で行う作業は、クラス内での相互評価を行います。 	<p>『日本語教育論集』(吉田彌壽夫監修、学研)</p> <p>『概説日本語教育』(遠藤敏枝編、三修社)</p> <p>『日本語教授法』(石田敏子、大修館書店)</p> <p>『実践日本語教授法』(名柄迪監修、中西家栄子他、バベルブックス)</p> <p>『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』(名柄迪他、アルク)</p> <p>『日本語教育への道』(土岐哲他、凡人社)</p> <p>『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』(石橋玲子、凡人社)</p>			
[教科書]				
教員の用意するファイルを使います。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語Ⅳ（講読）		通 期	2 単位	太 原 康 雄
[講義概要・学習目標] コンピュータ時代と言われている現代社会で、すこしでもコンピュータのことを理解する必要があります。 多くのコンピュータ用語は英語がそのまま用いられており、英語で読むことで簡単に知識を身につけることができます。 さらにコンピュータの中心的な話題であるコンピュータ通信やインターネットについて学びます。「インターネットの仕組み」から「その将来性と問題点」まで平易な英語で読んでいきます。 授業は発表形式で行いますので十分な予習が必要です。理解程度をチェックするため毎時間クイズ(小テスト)を行います。	[講義計画] 前期 Computer 後期 Internet			
[成績評価の方法] 前期・後期試験、クイズ、レポート、出席等による総合評価。	[参考文献]			
[教科書] B. Reffin-Smith/L. Watts (著)「Understanding Computers」MacMillan Languagehouse Shigeru Nakahata/Joseph Benson (著)「The Internet in English」Nan'un-do				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語Ⅴ（講読）		通 期	2 単位	前 田 淑 江
[講義概要・学習目標] 英語で書かれたエッセイを読んで、英語読解力を高めることを目指す。まずは速読し、大意を把握する。次に問題のある箇所のみを詳しく読む。できるだけ多くの英文を読み、英語を読むことに慣れてもらいたい。	[講義計画] 前期は、文法・英語的表現・発音などにも留意して、基本的なことも再確認しながら読んでいく。後期は、速読による大意把握に重点を置き、できるだけ多くの英文を読む。			
[成績評価の方法] 前期・後期の定期試験。 授業発表・提出物・出席状況などの平常点。	[参考文献]			
[教科書] プリントを準備する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語Ⅳ（作文）		通 期	2 単位	KathrynL. マルヤマ
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>This class will help students develop their ability to write academic papers using computers. Building from a review of paragraph writing techniques and processes, students will <i>learn to write longer essays</i> and to edit and revise their own and others' work. Emphasis will be on her processes of pre-writing and revising, as well as on the coherence, support and logical organization of the essays themselves. It is recommended that students have finished English II - writing (英語Ⅱ - ライティング) prior to taking this class. This course should be <i>most useful for students who must write longer papers in English, or for those who plan to study or work abroad in the future.</i></p>	<p>[講義計画]</p> <p>In the first half of the year we will study the basic processes of preparing to write and writing the basic parts of paragraphs and essays. Then we will begin to put what we have studied to use in writing paragraphs and essays to summarize others' points and to express our own opinions.</p> <p>In the second half of the year we will study specific types of longer essays frequently used in academic writing - process, classification, cause-effect, comparison-contrast, and problem-solution. Finally we will analyze and try our hand at writing essays for graduate school or job applications.</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>Grades will be based on:</p> <ul style="list-style-type: none"> • class participation (discussions, peer evaluations, etc.) • student writing portfolios (to be explained in the first class) 	<p>[参考文献]</p> <p>Other necessary materials:</p> <ul style="list-style-type: none"> a GOOD Japanese-English dictionary a floppy disk (Macintosh) - for only this class 			
<p>[教科書]</p> <p>Text: <i>Ready to Write More</i> by K. Blanchard and C. Root (Longman)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語Ⅴ（作文）		通 期	2 単位	CarlquistL.Harris
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>This is a small, informal class. We are free to do whatever the students are interested in, for example: letter writing, pen pals (with students at other universities), e-mail, poetry, fiction, essays, library research, etc.</p>	<p>[講義計画]</p> <p>Free, according to students' interests. Last year, we spent the first semester on letters and different types of essay writing and the second semester on library research. We worked on topics related to the students' "satsugyū ronbun".</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>Based on class time performance.</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>None.</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語Ⅳ(会話)	01	通期	2単位	Daniel M. Walsh
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>このコースは、話す力をさらに伸ばすことを目的としている。また、ネイティブ・スピーカーとの会話の運び方、英語学習の継続方法等を個々に指導する。コース終了時には、日常の様々なトピックに関して英語で質問し、自分の意見を述べるができるようにする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>現代の若者が関心を示しているトピックを学習するために関連のある歌、ビデオ、プリントを使用する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>最終成績は、(1)出席率 (2)授業での積極的参加度 (3)学生と教師間の言語学習日誌の継続率に基づいて評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>テキストを使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語Ⅳ(会話)	02	通期	2単位	Ronald Cline
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>The main activity in this class will be communication by using various kinds of communicative activities such as games, discussions, problem solving, social communication, and talking freely about various topics. Only English will be used in this class. NO JAPANESE!</p>	<p>[講義計画]</p> <p>In the first semester, there will be a concentration on how to use English combined with using the English studied freely based on everyday topics such as self-introductions, family, daily routine, free time, travel, interests, etc.</p> <p>In the second semester, there will be stronger emphasis on producing English oneself using more sophisticated topics such as marriage, health, the future, food, residence, etc.</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>Grades will be determined by class participation, improvement in English, and attendance.</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>no textbook</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語Ⅳ（会話）	03	通 期	2 単位	Reid Neuffer
<p>[講義概要・学習目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> -Conversation activities based on Problem Solving -Material From THE NEWSPAPER. -Short clips from Selected movies -Personal experiences 	<p>[講義計画]</p> <p>Part(A): CONVERSATION ACTIVITIES INVOLVING SHARING INFORMATION AND PROBLEM SOLVING.</p> <p>Part(B) DISCUSSION OF CURRENT EVENTS</p> <p>Part(C) DISCUSSION BASED ON SELECTED MOVIE CLIPS</p>			
<p>[成績評価の方法] EACH STUDENT WILL HAVE A GRADE POINT CARD. POINTS WILL BE EARNED AND ENTERED ON THE GRADE POINT CARD EVERY CLASS BASED ON THE STUDENT'S PARTICIPATION.</p> <p>[教科書] NONE</p>	<p>[参考文献]</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語Ⅳ（会話）	04	通 期	2 単位	David T. Van Ham
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>This class will focus on English conversation based on topics of a practical and useful nature related to completing functional tasks in English i.e. shopping, travel, eating out, etc.. The emphasis will be on producing spoken English that is easily understood as well as understanding various speakers of English through listening exercises. Students will participate in a variety of activities centered around these topics and allow them, through the use of authentic materials, listening and conversation activities, to experience English conversation at a basic but useful level for authentic English communication.</p>	<p>[講義計画]</p> <p>First Semester: The focus of the first semester will be on practical use of English for traveling i.e. shopping, eating out, directions, etc..</p> <p>Second Semester: The focus of the second semester will be on English for social relationships, conversational topics, describing pastimes, making appointments, etc..</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>Grading: Students will be graded on their class attendance and active class participation.</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>Text: Jack. C. Richard. <u>Listen For It New Edition</u> Oxford University Press</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語Ⅳ(会話)	05	通期	2単位	Daniel M. Walsh
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>このコースは、話す力をさらに伸ばすことを目的としている。また、ネイティブ・スピーカーとの会話の運び方、英語学習の継続方法等を個々に指導する。コース終了時には、日常の様々なトピックに関して英語で質問し、自分の意見を述べるができるようにする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>現代の若者が関心を示しているトピックを学習するために関連のある歌、ビデオ、プリントを使用する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>最終成績は、(1)出席率 (2)授業での積極的参加度 (3)学生と教師間の言語学習日誌の継続率に基づいて評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>テキストを使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語Ⅴ(会話)	01	通期	2単位	Daniel M. Walsh
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>このコースは、話す力をさらに伸ばすことを目的としている。また、ネイティブ・スピーカーとの会話の運び方、英語学習の継続方法等を個々に指導する。コース終了時には、世界中のほとんどの人達が共有する目標と理想である人間の価値に関するトピックについて英語で質問し、自分の意見を述べるができるようにする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>現代の若者が関心を示しているトピックを学習するために関連のある歌、ビデオ、プリントを使用する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>最終成績は、(1)出席率 (2)授業での積極的参加度 (3)学生と教師間の言語学習日誌の継続率に基づいて評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>テキストを使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語V (会話)	02	通 期	2 単位	Reid Neuffer
[講義概要・学習目標] - CONVERSATION activities based on problem solving - Material from The newspaper. - Short clips from selected movies - Personal Experiences	[講義計画] Part(A): CONVERSATION Activities involving sharing information and Problem Solving. Part(B) Discussion of current events. Part(C) Discussion based on selected Movie clips.			
[成績評価の方法] EACH STUDENT will have a grade point card, Points will be earned and entered on the grade point card every class based on the student's participation.	[参考文献]			
[教科書] NONE				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語IV (LL)		通 期	2 単位	西 崎 和 子
[講義概要・学習目標] 英語を早く上手に非常重要な英語の勉強の短縮、同化、外へ出る。リスニングの基礎を学ぶ、慣れ親しむ練習をする。次に英語のニュースや記事に用い、英語の理解を練習を行う。ビデオ教材、衛星放送の英語ニュース等も取り入れ、導く英語の聴解能力を総合的に高める。	[講義計画] (前期) テキストの前半、基本的な英語の発音、リスニングの学習 (後期) テキストの後半、ビデオ教材、英語ニュース等			
[成績評価の方法] 出席最重要、授業中の態度、テスト、平常テスト、レポート等による総合評価	[参考文献]			
[教科書] Nina Weinstein <u>Whaddaya say?</u> (Prattice Hall Regents) Roger Barnard <u>Good News, Bad News</u> (Oxford University Press)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語 V (LL)		通 期	2 単位	西 崎 和 子
<p>[講義概要・学習目標] 環境問題, 時事問題等, テマに沿って英語と関する 練習を行う。 衛星放送, ビデオ教材, 映画等 多角的に アリスの聴解訓練を行う。 ともに高レベル授業のため, やる気のある人は非常に勉強に励む授業で, ともに学べよう。</p>		<p>[講義計画] (前期) テキスト前半, 英語ニュース, ビデオ教材 (後期) テキスト後半, 英語ニュース, ビデオ教材 映画等</p>		
<p>[成績評価の方法] 出席最重視, 授業中の態度, 1回 平常テスト, レポート等による総合評価。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書] Barbara A. Bowers, John Godfrey <u>What in the World?</u> (Prentice Hall Regents)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																												
教育原理Ⅰ・Ⅱ (旧教育原理) 教育原理Ⅰ・Ⅱ (旧教育原理)	01 02	前・後期 前・後期	4単位 4単位	竹 中 暉 雄																												
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「教育職員免許法施行規則」に規定されている「教育の本質及び目的」(前期)と「教育に関する社会的・制度的問題」(後期)を扱う。</p> <p>前期には、なぜ人間だけが長期にわたる教育を必要とするのか、そしてなぜそのことが可能なのかを、脳科学の助けを借りて考える。その次には、どのような人間をつくるのかという教育理念・目的が問題となる。その時代背景との関係のなかで歴史の変遷を追い、現代の私たちに問われている教育目的について考察する。</p> <p>後期には、本来は私的で個人的なものでありながら、現実には法令に基づき国家的な制度として行なわれる学校教育が孕んでいる諸問題について考える。現代のさまざまな教育問題の根源はおもにこの矛盾から派生してきている。制度的な教育にはそれなりの利点があるけれども、ともすれば個人の自由や自主性が無視される側面も存在するからである。</p> <p>教育学の学習において留意してほしいのは、決まりきった「正解」などないことである。神秘性に富んだ人間についての学問であるので仕方ないことである。講義内容および各自で仕入れた知識を比較検討して自分の教育論をもつようにしてほしい。質問・意見は質問票およびE-mail (takenaka@andrew.ac.jp) の形で受けつけますので、どんどん出してください。</p>	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>前期</td> <td>後期</td> </tr> <tr> <td>1 教育の定義</td> <td>1 義務教育と登校拒否</td> </tr> <tr> <td>2 教育必要性と教育可能性</td> <td>2 家庭での就学</td> </tr> <tr> <td>3 我・汝関係と教育関係</td> <td>3 進級・卒業の問題</td> </tr> <tr> <td>4 教師と教育的タクト</td> <td>4 学習指導要領の問題</td> </tr> <tr> <td>5 人間の脳の特異性</td> <td>5 指導要録の問題</td> </tr> <tr> <td>6 遺伝と環境の問題</td> <td>6 いじめの定義と構造</td> </tr> <tr> <td>7 生涯学習の必要性と可能性</td> <td>7 裁判例と克服策</td> </tr> <tr> <td>8 近代教育論の始まり</td> <td>8 教職の性質</td> </tr> <tr> <td>9 「合自然」の教育論</td> <td>9 研修義務</td> </tr> <tr> <td>10 「反合自然」の教育論</td> <td>10 経済的待遇</td> </tr> <tr> <td>11 児童中心主義の意義</td> <td>11 部活動指導</td> </tr> <tr> <td>12 実存主義からの問題提起</td> <td>12 教員定数</td> </tr> <tr> <td>13 「個」か「集団」か</td> <td>13 教師と体罰</td> </tr> </table>				前期	後期	1 教育の定義	1 義務教育と登校拒否	2 教育必要性と教育可能性	2 家庭での就学	3 我・汝関係と教育関係	3 進級・卒業の問題	4 教師と教育的タクト	4 学習指導要領の問題	5 人間の脳の特異性	5 指導要録の問題	6 遺伝と環境の問題	6 いじめの定義と構造	7 生涯学習の必要性と可能性	7 裁判例と克服策	8 近代教育論の始まり	8 教職の性質	9 「合自然」の教育論	9 研修義務	10 「反合自然」の教育論	10 経済的待遇	11 児童中心主義の意義	11 部活動指導	12 実存主義からの問題提起	12 教員定数	13 「個」か「集団」か	13 教師と体罰
前期	後期																															
1 教育の定義	1 義務教育と登校拒否																															
2 教育必要性と教育可能性	2 家庭での就学																															
3 我・汝関係と教育関係	3 進級・卒業の問題																															
4 教師と教育的タクト	4 学習指導要領の問題																															
5 人間の脳の特異性	5 指導要録の問題																															
6 遺伝と環境の問題	6 いじめの定義と構造																															
7 生涯学習の必要性と可能性	7 裁判例と克服策																															
8 近代教育論の始まり	8 教職の性質																															
9 「合自然」の教育論	9 研修義務																															
10 「反合自然」の教育論	10 経済的待遇																															
11 児童中心主義の意義	11 部活動指導																															
12 実存主義からの問題提起	12 教員定数																															
13 「個」か「集団」か	13 教師と体罰																															
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期末および後期末の2度の論述試験による。Ⅰ、Ⅱを同一年度に合格しないと単位認定できない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>テキストに記載されている引用文献・参考文献</p>																															
<p>[教科書]</p> <p>竹中・中山・宮野・徳永 (共著) 『時代と向き合う教育学』ナカニシヤ出版 1997年</p>																																

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																																
教育心理学 教育方法学 (旧教育心理・方法学)	01 02	前・後期 前・後期	4単位 4単位	冷 水 啓 子																																
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>子どもたちは、家庭、学校、地域社会における日常生活の中で、ものや他者とのかわりあいを通して実にさまざまな知識や技能を習得し、発達していく。どのような子どもでも、その子なりに、自己の確立をめざして主体的・能動的に学び続けていこうとする意欲や能力をもっている。周囲の大人たちは、そのような子ども本来の姿に気づき、それを理解し、それぞれの個性に即した教育的な働きかけを行わなければならない。</p> <p>本講では、このような教育理念に基づき、乳幼児期・児童期・青年期の「発達と学習」に関する基本的な教育心理学理論および方法論を概説する。即ち、子どもの「発達と学習」の過程を概観し、それを支援するさまざまな「教授・学習」および「測定・評価」の理論と方法の実際を検討する。</p> <p>講義内容に関連する資料や補助教材は、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。必要に応じて、簡単な心理学的テスト、実験、調査などの実習も導入する。</p> <p>履修生の主体的・積極的な受講を期待している。</p>	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td><前期></td> <td><後期></td> </tr> <tr> <td>I. はじめに</td> <td>I. はじめに</td> </tr> <tr> <td>II. 「発達」とは何か</td> <td>II. 教授・学習の理論と方法</td> </tr> <tr> <td>1. 発達のすじみち</td> <td>1. 学校での学習と日常生活での学習</td> </tr> <tr> <td>①乳幼児期</td> <td>2. 教授・学習の理論と方法</td> </tr> <tr> <td>②児童期</td> <td>3. 学習を支える人格と意欲</td> </tr> <tr> <td>③青年期</td> <td>①内発的動機づけと自己学習能力</td> </tr> <tr> <td>2. 発達の原理</td> <td>②知的好奇心と学習</td> </tr> <tr> <td>①遺伝と環境</td> <td>4. 子どもの理解を促す学習</td> </tr> <tr> <td>②成熟と経験</td> <td>①スキーマ理論の導入</td> </tr> <tr> <td>③発達の理論</td> <td>②心的イメージの利用</td> </tr> <tr> <td>3. 発達に関する諸問題</td> <td>III. 教育へのコンピュータ利用</td> </tr> <tr> <td>III. 「学習」とは何か</td> <td>1. CAI, CMI</td> </tr> <tr> <td>1. 学習の原理と理論</td> <td>2. インターネットの利用</td> </tr> <tr> <td>2. 学習と認知</td> <td>IV. 教育測定と評価</td> </tr> <tr> <td>IV. 前期のまとめ</td> <td>V. 後期のまとめ</td> </tr> </table> <p>注) この計画内容については講義の進捗状況によって変更することがある。</p>				<前期>	<後期>	I. はじめに	I. はじめに	II. 「発達」とは何か	II. 教授・学習の理論と方法	1. 発達のすじみち	1. 学校での学習と日常生活での学習	①乳幼児期	2. 教授・学習の理論と方法	②児童期	3. 学習を支える人格と意欲	③青年期	①内発的動機づけと自己学習能力	2. 発達の原理	②知的好奇心と学習	①遺伝と環境	4. 子どもの理解を促す学習	②成熟と経験	①スキーマ理論の導入	③発達の理論	②心的イメージの利用	3. 発達に関する諸問題	III. 教育へのコンピュータ利用	III. 「学習」とは何か	1. CAI, CMI	1. 学習の原理と理論	2. インターネットの利用	2. 学習と認知	IV. 教育測定と評価	IV. 前期のまとめ	V. 後期のまとめ
<前期>	<後期>																																			
I. はじめに	I. はじめに																																			
II. 「発達」とは何か	II. 教授・学習の理論と方法																																			
1. 発達のすじみち	1. 学校での学習と日常生活での学習																																			
①乳幼児期	2. 教授・学習の理論と方法																																			
②児童期	3. 学習を支える人格と意欲																																			
③青年期	①内発的動機づけと自己学習能力																																			
2. 発達の原理	②知的好奇心と学習																																			
①遺伝と環境	4. 子どもの理解を促す学習																																			
②成熟と経験	①スキーマ理論の導入																																			
③発達の理論	②心的イメージの利用																																			
3. 発達に関する諸問題	III. 教育へのコンピュータ利用																																			
III. 「学習」とは何か	1. CAI, CMI																																			
1. 学習の原理と理論	2. インターネットの利用																																			
2. 学習と認知	IV. 教育測定と評価																																			
IV. 前期のまとめ	V. 後期のまとめ																																			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視する。前期末と後期末に試験を実施する。その他、必要に応じて簡単な実験・調査などの実習への参加、レポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>赤堀侃司 (著) 『学校教育とコンピュータ』(NHKブックス) 藤永 保 (著) 『幼児教育を考える』(岩波新書) 波多野直余夫・稲垣佳世子 (共著) 『人はいかに学ぶか——日常的認知の世界』(中公新書) 無藤 隆・藤崎真知代・市川伸一 (共著) 『教育心理学』(有斐閣Sシリーズ) 高橋恵子・波多野直余夫 (共著) 『生涯発達の心理学』(岩波新書) 吉田 甫・栗山和広 (編著) 『教室でどう教えるかどう学ぶか』 (北大路書房)</p>																																			
<p>[教科書]</p> <p>岩田純一・梅本堯夫 (編) 『教育心理学を学ぶ人のために』(世界思想社)</p>																																				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商業科教育法		通 期	4 単位	松 原 勇
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>高等学校の商業科教員を目指す学生を対象に、教員免許取得の必修科目である。今日の商業教育は、グローバルスタンダード化に対応できる人材の育成が急務であり、優れれば企業倫理を身につけ、専門的知識、技術などの修得が求められる。</p> <p>本講は、企業社会の大競争時代の現状を踏まえ、将来の商業教育を展望しつつ、教育上の本筋を究明する。特に商業教育の目的、教育課程の編成、学習指導法、教員の資質能力等教育者が修得すべき方法論を重点的に網羅して講義する。併せて、模擬授業の展開により、創造力、表現力の向上、学習指導案の作成、EQ等の実践指導を学ぶ。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 1. 商業教育の意義と目的 2. 商業教育の変遷 3. 現在の商業教育 4. 商業教育における国際化・情報化</p> <p>(後期) 1. 教育課程の編成、模擬授業の展開 2. 学習指導法 (表現力の指導) 3. 学習指導計画と教育評価 4. 教員の資質能力と研修制度 5. 今後の商業教育の展望等</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>主として、出席を厳しく重視して評価する。</p> <p>また、模擬授業の実践面の評価、併せて学年末試験も勘案の上、総合評価とする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>文部省(編)「高等学校学習指導要領(商業編)」(大日本図書)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>松原 勇(編著)「商業科教育法」(ぎょうせい)</p>				

<インテグレーション科目>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
教育実習	01 02 03 04	前期 前期 前期 前期	3 単位 3 単位 3 単位 3 単位	島田 勝正 冷水 啓子 林 陸雄 林 陸雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>教育実習とは、教職課程で履修してきた学習内容を現実の教育現場に立って実地に検証するものである。これは、実習校での実地実習(2週間)とその前後の学内実習とで構成され、両者あわせて「教育職員免許法施行規則」により求められた3単位となる。</p> <p>はじめは、学内での事前実習において、教育実習に臨むための基礎的な条件を再確認し、授業に必要な最低の理論と技術を習得する。次いで、教育の現場で、教員としての社会的責任を自覚したうえで、授業実習、学級管理、特別活動や課外活動の指導などを実地に体験する。そこでは、実習上の要件を満たさない場合は、途中で実習を打ち切られたり、実習の評価をしてもらえなくなることもあるので、学校長をはじめ各教員による指導にしがたい、慎重に行動すること。第三に、再び学内に戻ってからの事後実習では、自己の実習経験をふまえて模擬授業に臨む。また、他の実習生や本学卒業生の体験談などをもとに実地実習内容を再点検し、教職課程全体についての自己評価を行う。</p> <p>なお、この教育実習では、一貫して、教師としての基礎的条件に関する実地訓練がその基盤となる。したがって、事故または疾病などによる正当な理由がないかぎり、遅刻・早退・欠席は認められないので注意すること。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1. ガイダンス 2. } 3. } 事前実習：模擬授業 4. } 5. } 6. } 7. } 8. 実地実習 9. 実地学習 10. } 11. } 事後実習：模擬授業 12. } 本学卒業の教員による講話 13. } 14. まとめ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>実習校による評価表、実習簿、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会で総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>池田、酒井、野里、宇井(編著)『教育実習総説』(学文社) 白井、寺崎、黒澤、別府(編著)『教育実習57の質問』(学文社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>桃山学院大学教職課程委員会(編) 『教職をめざすには——教職課程履修ガイド——』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育哲学		後 期	2 単位	徳 永 正 直
[講義概要・学習目標] カントが掲げた哲学の4つの根本問題との関連で、次のような主題をオムニバス方式によって解説する。認識論との関連では、言語の人間学的意義をホルノーに従って明らかにする。また、人間学との関連では、アリス・ミラーとフランクルの精神療法の立場の相違を中心に、人間が生きているということの意味を考える。教育理解は人間の捉え方によって決定的に規定されるが、逆に教育実践に携わることで人間観の修正を迫られることがある。人間と教育の密接な関わりを、フリットナーを手掛かりに解説する。最後に、子どもの正しい発達を保障するための「教育の自律」の問題をノール教育学を手掛かりに解説する。	[講義計画] § 1. 教育哲学とは何か § 2. 言語の人間学的意義 ①言語の本質と機能 ②言語への懐疑と言語の教育に際しての注意点 ③言語の発達 ④言語によるコミュニケーションの諸形式 § 3. 生きるということの意味をめぐって ①アリス・ミラーの問題提起 ②フランクルの実存分析 ③生命と生といのち § 4. 人間把握と教育理解の相即性 フリットナー教育学の立場 § 5. 教育の自律という問題 ①ノールの立場と教育関係論 ②教育の自律の歴史的展開をたどる ③その制度的保障を巡って			
[成績評価の方法] レポート作品と出席状況などを総合的に判断して評価する。	[参考文献] そのつど指示する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育史		前 期	2単位	小 股 憲 明
[講義概要・学習目標] 日本教育史について、近現代を中心に概説する。	[講義計画] 1. 近世の士庶教育～藩校・寺子屋・郷学・私塾～ 2. 欧米における近代公教育制度の成立 3. 明治期における義務教育制度の創始・確立・発展 4. 国民教育～教科書・教育勅語・御真影～ 5. 中等教育～中学校・高等女学校・実業学校～ 6. 高等教育～帝国大学・大学・専門学校～ 7. 戦後教育改革 8. 戦後教育の展開とその現在			
[成績評価の方法] 出席およびレポート。	[参考文献] 講義の中で適宜指示する。			
[教科書] 用いない。講義は、プリントおよび講義ノートを中心にして進める。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教 育 社 会 学		通 期	4 単位	宮 崎 和 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>教育社会学は、教育と社会の関係を社会学の方法で研究する科学である。教育の問題は、今や学校のみならず家庭や地域社会など広範囲で大きな社会問題になっていることが多い。</p> <p>本講義では、現代社会の特質からくる教育の諸問題を積極的に取り扱う。たとえば、学歴社会問題、受験競争問題、家庭や地域社会の教育力の低下問題等と非行や逸脱行為、少年犯罪との関連、いじめや不登校問題、若者文化と流行、マンガ文化やTV文化の教育への影響問題などいろいろな教育問題と学校組織の構造的な問題点との関連を具体的多面的に考察する。</p> <p>その中で、教育と現代社会の特質との関連を分析する社会学的視点を論究するとともに、現代教育が抱えている諸問題を実証科学的に分析し考察する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の特質と教育 2. 情報化社会と教育 3. 国際化社会と教育 4. 少子高齢社会と教育 5. 学歴社会と教育 6. 管理社会と教育 7. 学習社会と生涯教育 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 人権問題と教育 9. 学力保障と教育機会 10. ジェンダーと教育 11. 社会階層と教育 12. 学校の官僚制と教師集団 13. 社会変動と教育改革 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績と年間数回提出してもらったレポートなどを総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宮崎和夫（編著）「生徒指導の理論と実践」（学文社） 2. 宮崎和夫（編著）「現代教育原理」（創森社） 3. 麻生 誠他著「学校の社会学」（学文社） <p>上記の他、講義の進捗に合わせて、授業の中で随時紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>宮崎和夫（編著）「社会と教育への視点」（創森社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教 育 法 規 教育行政学（旧教育行政学）		前 後 期 期	4 単位	佐 野 正 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>わが国の学校教育において子どもの権利を実現する道筋を説きながら、併せて、そうした教育環境を整備する責任を負う教育行政のあり方についても考える。</p> <p>(1) 学校は何の権限があって、他人の子どもの頭を丸刈りにさせたり、体罰を加えたりするのであろうか。学校にまかり通る理不尽なまきりや管理。それらによって拘束されているのは子どもたちだけではない。子ども、父母、教師のそれぞれの人権・権利を擁護する立場から、学校での子どもたちの学習や生活を見直す。その見直しの視座を、憲法、教育基本法、子どもの権利条約に置き、今日の状況と学校再生の道筋について、教育法学的な分析を加える。</p> <p>(2) 教育行政の概念、基本理念、組織及び運営を概説する。さらに、実際の我が国の教育行政の問題点と、教育荒廃といわれる今日的状況に対して本来果たすべき役割について論じる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期>子どもの人権と学校教育</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 校則と子どもの人権 (2) 教師の懲戒権と子どもの人権 -懲戒と体罰- (3) 教師の教育評価権と子どもの人権 (4) 「子どもの権利条約」が提起するもの <p><後期>教育行政の基本理念、組織及び運営</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育行政の歴史 (2) 教育行政の基本理念 (3) 教師の職務と研修 (4) 学校の管理・運営と教育行政 (5) 文部省と教育委員会 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験の成績と平常成績とで総合評価する</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『教育小六法』（学陽書房、三省堂、第一法規など、どこの出版社でもよい）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>備えておくことが望ましい書籍。</p> <p>細井克彦・田中耕二郎編 『子どもを生かす教育行政』（ミネルウァ書房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本史	01	通 期	4 単位	南 川 久 子
【講義概要・学習目標】 日本社会の歴史を、通史的・史的・科学的に記述し、その背景・動機・結果を明らかにし、現代社会の発展に資する歴史を学ぶ。	【講義計画】 <前期> ① 歴史認識の形成 ② 古代の王朝と文化 ③ 中世の民衆思想 ④ 浄土思想と悪人救済の思想 ⑤ 中世の民衆思想と一説・狂言を中心として <後期> ⑥ 封建社会の儒教と身分制 ⑦ 黒船来航と「脱亜論」 ⑧ 福澤諭吉と「西洋事情」 ⑨ 大逆無道事件と「天竺国」 ⑩ 大逆無道事件と「天竺国」			
【成績評価の方法】 前期：レポート提出、後期：試験（ペーパーテスト）実施 出席点を加味する。	【参考文献】 適宜指示する。			
【教科書】 竹内 誠・佐藤和彦・君島和彦・木村茂光編（共著） 『教養の日本史』【第2版】（東京大学出版会）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本史	02	通 期	4 単位	横 井 清
【講義概要・学習目標】 学校教育における「日本史」教育の上で特に留意すべき論点を含む各時代の事象・事件・人物論などを取り上げ、具体的に、分かりやすく解説することをめざして実施する。要は、歴史を知ることの愉しさと大切さを、将来「授業する側」に立とうとする者がどのように、どの程度に、体得できるか——にある。 なお、念のために付言すると、教科書は用いないので、授業での板書の内容を着実に記録し理解して行くことが極めて重要である。	【講義計画】 前期においては原始・古代～中世末を対象とし、 後期には近世初頭以降の時代を取り扱う。			
【成績評価の方法】 通年筆記試験による。	【参考文献】 歴史学研究会編『日本史年表【増補版】』（岩波書店）等の歴史年表を授業時間に携行・参照するとよい。（授業内容の理解の程度は倍加する。）			
【教科書】 				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	01	通 期	4 単位	山 崎 充 彦
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>「歴史」の捉え方、教え方ほど難しいものはない。諸君たちのなかには、あるいは歴史とは単なる年号の羅列であると考え、歴史の学習とは、年号と歴史的な事件を暗記すればよいと思っている人がいるかも知れない。だが、歴史は年号の羅列ではないし、歴史研究・歴史学習とは決して暗記だけでこと足るものでもない。諸君らが、「歴史的事実」と確信していることであっても、その評価や位置づけは時代や人によって様々に変わることも稀ではない。</p> <p>この講義では、まず、担当者が、歴史的なものの見方とは何かについて述べ、歴史の研究・解釈が研究する者の立場に依拠する実例を挙げて、「歴史研究の持つ危うさ」を指摘するところから始める。</p>	<p>この講義は、教職科目であり将来、社会科教師として実際に教壇に立つことを目指す人を念頭において、進めてゆく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者の講義 <ul style="list-style-type: none"> 1、歴史研究の持つ問題性 2、ヨーロッパ中心史観の問題性 3、現代史をどう解釈するか。 ・模擬授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> 担当者の講義のみならず、受講生の模擬授業を積極的に取り入れる。とりわけ、4回生諸君は教育実習を控えているわけであるから、まず4回生から模擬授業を行ってもらおう。 ・ビデオ上映 <ul style="list-style-type: none"> 現代史と歴史学習に関するビデオを観てそれに関するレポートを提出してもらおう。 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>学年末試験や、模擬授業・ビデオについてのレポートで総合的に判断する。</p>	<p>授業中に指示する。</p>			
[教科書]				
<p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	02	通 期	4 単位	和 栗 珠 里
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>歴史教育とは、人名や年号など史実の詰め込みではなく、人類がたどってきた歩みを知り、我々が生きる現代世界のあり方をも理解することではない。そのためにはまず、広い視野に立って歴史の流れを把握することが重要である。この講座では、世界史の枠組みが大きく変化した16世紀から19世紀までのヨーロッパを中心に、近代社会がどのようにして形成されてきたかを見ていく。前期では経済や人々の生活の面から、後期では政治的な面から、「近代化」の問題を考えたい。また、講義で論じた内容が実際の歴史教科書や大学入試問題でどう扱われているかを見る機会もつくる予定である。必要に応じてビデオやスライドなど視聴覚教材も用いる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代社会とは何か 2. 大航海時代と諸蛮革 3. 帝国主義 4. 戦争と革命 5. 現代への展望 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>前期レポートと後期試験を中心に評価するが、その他に数回簡単な感想文などを提出してもらい、判断材料に加える。</p>	<p>大下尚一 / 西川正雄 / 服部春彦 / 望田幸男 編 『西洋の歴史（近現代編）』（ミネルヴァ書房）</p>			
[教科書]				
<p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
倫理学		通 期	4 単位	倉 本 香
[講義概要・学習目標] <p>「私は何をなすべきか」、「私はいかに生きるべきか」と考えたことはありますか？ 私達は行為の仕方の善悪をどのように決めることができるのでしょうか。あるいは、そもそも私達は自分の行為を自由に選択することができるのでしょうか。それが可能であるとするならば、どのような意味においてでしょうか。</p> <p>まずはじめに「自由な意志」について考えてみたいと思います。というのは、人間が行為の仕方を自らの意志で自由に選択できてこそ、それに対して善悪を問う、という倫理的問題が生じるからです。</p> <p>ところが近代以降、この「自由な意志」を持った人間は、一体何を選択してきたのでしょうか。近代的な人間の成立とともに出現した倫理的問題を、現代に至るまで跡付けてみます。これらの問題の考察が契機となって、皆さんが自分の行為や生き方を複数の視点から自覚的に選ぶことができるようになることを望んでいます。</p>	[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 自由、自律の思想（カント） 2. コミュニケーションの倫理 3. 「学ぶ」ことと「生きる」こと 4. 本来的な生き方とは何か（ハイデガー） 5. 近代的主体の成立（フーコー） 6. 近代的主体の問題（ナチズムの思想、生命倫理の諸問題） 7. 功利主義の思想と現代倫理の問題 			
[成績評価の方法] <p>レポート、自己評価</p>	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
職業指導		通 期	4 単位	松 原 勇
[講義概要・学習目標] <p>21世紀を担う職業人は、高い志を持つと共にエネルギーに溢れた豊かな人間形成をはたかせることが最大の使命である。今日、企業社会の強く要請している人材は、優れた職業倫理を身につけ、自覚と責任を持って職務に情熱を傾け、自己の勉めある感性を磨き、もてる能力を最大限に発揮できるように知識、技術の修得が求められる。</p> <p>本講義では、その趣旨を踏まえ、グローバルスタンダードに対応できる職業意識の涵養を目指し、職業観を明確にして、職業能力の適性を伸ばさせ、職業指導の重点的な本筋を究明して講義する。</p> <p>併せて、就職準備のための「期待される新入社員の像」と関連して、表現能力等の方法論の実践指導もはたかせる。</p>	[講義計画] <p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職業指導と生涯教育 2. 職業指導の必要性 3. 就職活動への指針 4. 就職試験の実践指導 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 業務の上手な進め方 2. ビジネス文書の書き方 3. 電話の取扱い方 4. 職場の人間関係 	<ol style="list-style-type: none"> 5. 学生生活と社会生活の相違 6. 働くことの意義 7. 職業人の心得 		
[成績評価の方法] <p>主として、出席を厳しく重視して評価する。併せて、学年末試験の成績等も勘案のうえ、総合評価とする。</p>	[参考文献]			
[教科書] <p>松原 勇(著)「新ビジネスマンの基礎知識」(ぎょうせい)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学概論		通 期	4 単位	山 本 雅 代
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>「言語」と言えば、学生諸君の多くは国語や英語などの学習を思い起こすのではないかと思うが、「言語学」とは、そうした個別言語の能力習得・伸長を図ることを目的とするものではない。「言語学」とは『「言語とは何か」とか『言語はどのように働くか』という根元的な問いに答えようとする学問である』（エイチソン、1995:2-3）。このとてつもない問いに挑戦するための第一歩を踏み出さんとする学生諸君のために開講されているのが本講義である。なお本講義は概論のため、特定の領域を深く掘り下げるのではなく、言語についての全般的な基礎知識の習得を目標とするものである。</p>	<p>【前期】言語そのものの分析（単位や構造）を中心とした講義</p> <p>《テーマ》 言語学とは何か／言語の特性／動物と人間言語／音声学／音韻論／形態論／単語／統語論／意味論／</p> <p>【後期】言語とその周辺領域の関連を中心とした講義</p> <p>《テーマ》 語用論／言語の使用／言語と社会／言語と心・脳／言語とコンピュータ／言語の変化／言語の比較／手話／言語相対性・言語普遍性／</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>1) 出席、レポート等の提出を最低条件とし、2) 質問、意見の表明等授業への積極的参加の姿勢と、3) 定期試験の結果をもとに総合的に判断する</p>	<p>風間喜代三ほか著『言語学』（東京大学出版会） 小泉保著『日本語教師のための言語学入門』（大修館書店） 中島平三・外池滋生編著『言語学への招待』（大修館書店）</p>			
[教科書]				
<p>ジーン・エイチソン著（田中春美ほか訳） 『入門言語学（改訂新版）』（金星堂）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
応用言語学		通 期	4 単位	橋 内 武
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>応用言語学とは何かについて考えたあと、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語問題の学（言語障害、識字、言語交替など） 2. 外国語教育学（教授法、教材・教具論、評価論） 3. 学際的言語学（言語学と隣接科学） 4. 言語と専門職の研究（通訳・翻訳、言語治療など） <p>の4つの立場から応用言語学の課題と方法について明らかにしたい。</p> <p>この科目を履修する過程で次第に身近な言語コミュニケーションの問題に関心が高まり、ことばについて多角的に考える習慣が形成されることが学習目的である。</p>	<p>前期></p> <p>第1週～第2週：序論・応用言語学とは何か 第3週～第7週：言語問題の学 第4週～第13週：外国語教育学</p> <p><後期></p> <p>第1週～第7週：学際的言語学 第8週～第12週：ことばと専門職 第13週：まとめと復習</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>レポートと年度末試験の結果を勘案して判定する。</p>	<p>Richards, Jack et al. <u>Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics</u>. Longman.</p>			
[教科書]				
なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語文化特講（対照言語学）		通 期	4 単位	梅 田 礼 子
[講義概要・学習目標] 音声・音韻、文法、語彙などさまざまな観点からいくつかの言語を比較検討し、言語の本質を考える。 講義は教科書を中心に、受講者からの意見・疑問・発見などを取り上げ、さらに深く考える場にしてゆきたい。積極的な参加を期待します。	[講義計画] 前期 1. 対照言語学とは 2. 音声・音韻 3. 文法 後期 4. 表現 5. 語彙 6. 言語行動			
[成績評価の方法] 授業への参加、カードによる加点、定期試験(前期・後期各1回)	[参考文献] 『日英語対照による英語学概論』 西光義弘 編集 窪菌・影山ほか 1997 ころしお出版 など			
[教科書] 『対照言語学』 石納敏雄・高田誠 桜楓社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
異文化間コミュニケーション論		通 期	4 単位	遠 山 淳
[講義概要・学習目標] 異なる出自文化を持つ者とのコミュニケーションや、異文化同士がコミュニケーションを行う場合に発生する諸問題について講じる。 講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーション、などについて講義し、普遍文化と個別文化との関係、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。 情報は文化を生成し、文化は人間に対して規範的に係わる。異文化間コミュニケーションの最大の問題は自文化なのである。さて諸君は自文化を越えられるだろうか。	[講義計画] 〈前期〉 1 はじめに：異文化間コミュニケーション論とは 2 「文化」とは何か（所相として）：静態と動態 3 自文化中心主義と文化相対主義。相対主義批判。 4 「文化」とは何か：再考。定義。情報代謝理論。 5 コミュニケーションの志向性と型。 6 コミュニケーションの動因と文化型。 7 文化フィルターとしてのコミュニケーション型 8 言語と文化：サピア・ウォーフの仮説を中心に 9 コミュニケーション能力と言語能力 10 非言語コミュニケーション(1) 11 非言語コミュニケーション(2) 12 コミュニケーションの文化型：片立文化と両立文化 〈後期〉 13 日本のコミュニケーション(1)：獨立型特性 14 日本のコミュニケーション(2)：宗教史より 15 日本のコミュニケーション(3)：宗教的影響 16 日本のコミュニケーション(4)：時空感覚 17 日本のコミュニケーション(5)：土着と外来 18 日本のコミュニケーション(6)：否定と肯定 19 日本のコミュニケーション(7)：「理解」法の比較 20 英米人のコミュニケーション(1)：国民性の形成 21 英米人のコミュニケーション(2)：特殊性と特性 22 異文化間コミュニケーション(1)：循環の法則 23 異文化間コミュニケーション(2)：異なる価値観 24 まとめ：定義的方法と定性的方法：特徴と限界 25 予備日、または試験			
[成績評価の方法] 前期末試験、学年末試験および出席点に代えて不定期に小試験を行う。	[参考文献] 橋本清弘・石井 敏 (編) 遠山 淳 他 (共著) 『日本人のコミュニケーション』(桐原書店、1993) 古田 暁 (編)・石井 敏・岡部朗一・久米昭元 (共著) 『異文化コミュニケーション (改訂版)』(有斐閣、1996) 祖父江孝男 (著) 『文化人類学入門 増補改定版』(中公新書、1992) 他は、授業中に発表する。			
[教科書] 久米・遠山 他 (編・著) 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』(有斐閣、1997)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情研究Ⅱ		通 期	4 単位	岡 村 清 人
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>日本が、近年飛躍的な発展を遂げている背景に、優れた工業材料の開発がいかに深いかかわりを持っているかについて講義を行う。第二次世界大戦後50年、日本の産業発展に大いに寄与している鉄鋼材料、そして、今日のセラミックス材料や複合材料などの先進材料が、今後の日本および世界の発展にいかに関連しつづけるかについて説明する。さらにこのような発展をもたらしている根源についても追求する。</p> <p>次に、発展に従って、生活が豊かになるにつれて、リスクを負う状況にもある。例えば環境破壊などである。この二者のバランスに関しても講義を行う。</p>	<p><前期> 工業材料の発展の柱になっている鉄鋼材料の具体的な説明を行い、それらの明治、大正、昭和、平成における発展プロセス、社会への寄与、そして21世紀における創造的発展の可能性について、日本の教育体制などと関連させて講義を行う。</p> <p><後期> 今日の先進材料と呼ばれている半導体材料、セラミックス材料、複合材料などが、工業材料として日本で大いに発展している事情について講義を行う。そして、これらの工業材料の専心的開発が日本の将来の発展にいかなる影響を与えるかについて予測する。またそれらに伴うリスクについても説明する。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
レポート、出席など総合的に考慮して評価する。	<p>大石 嘉一郎(編)『日本産業革命の研究 上・下』(東京大学出版会) 覚丸 昌男・山本 良一(編)久松 敬弘 他共著 『未来社会と材料工学』 (東京大学出版会) H. W. ルイス(著) 宮永 一郎(訳)『科学技術のリスク』(昭和堂)</p>			
[教科書]				
講義資料を適宜配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語学概論		通 期	4 単位	有 川 康 二
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>次の日本語学習者の質問に答えてほしい。「『は』に濁点がつくと『ば』。でも、『な』に濁点の『な』が発音できないのは何故?」「大(おお)+型(かた)=おおがた(連濁あり。×おおかた)なのに、何故、大(おお)+風(かぜ)=おおがぜ(連濁なし。×おおがぜ)なのか。」「『私は田中です』と『私が田中です』はどこがどう違うのか。」</p> <p>答えられなくても心配御無用。(簡単に解答されてはこのような問題を飯の種にしている人達(=教師)が困ります。)日本人なら誰でも日本語を「使う」ことはできるが、その複雑な仕組みについて原理的に「説明する」ことは出来ない。(脳味噌は誰でも使えるが、脳味噌の中で何が起きているのか説明できないのと同じ。)日本語学を次の三つの視点から概論する。(1)言語学の視点:ヒトという生物種に発生したコトバとしての日本語の普遍的特徴の探求。(2)教育学の視点:日本語の非母語者が効果的に日本語を習得する為の実用的な説明。(3)哲学の視点:「自分とは何者か」という問を考えるための手がかり。</p>	<p><前期> 重要事項の解説と練習問題</p> <p><後期> 重要事項の解説と練習問題</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
出席・筆記試験	野田尚史『はじめての人の日本語文法』(くろしお出版)			
[教科書]				
上山あゆみ『はじめての人の言語学-ことばの世界へ』(くろしお出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語文法・文体論		通 期	4 単位	有 川 康 二
[講義概要・学習目標] 外国語学習に「おかしい」文はつきものである。(※：おかしい文。) a*困ったらいつでも私へ来なさい。 b.*私が京都で撮ったの写真 c.*私の父は山田先生を知ります。 d.*先生、私の推薦状はもうお書きになったんですか。(丁寧に催促したい時) 何故おかしいのか。だが、彼らには彼らなりの論理がある。(a)は"come to me"と言うから。(b)は中国語では「私京都照像の照片」で、「的」という日本語の「の」にあたるものがあるから。(c)は"know"="知る"だから。(d)は尊敬語を使用しているから問題ないはず。教科書として使用する『日本語の文法』には日本語のきまりと仕組みを探るための百題の間が用意してある。それらの重要問題を解いていく。	[講義計画] <前期> 重要事項解説と問題の解答 <後期> 重要事項解説と問題の解答			
[成績評価の方法] 出席・筆記試験	[参考文献] 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』(くろしお出版) 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』(くろしお出版) 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』(くろしお出版)			
[教科書] 寺村秀夫(著)『日本語の文法(上)』(国立国語研究所(日本語教育指導参考書4)) 寺村秀夫(著)『日本語の文法(下)』(国立国語研究所(日本語教育指導参考書5))				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
語彙・意味論		前 期	2 単位	藤 原 健
[講義概要・学習目標] 言葉による表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通である。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達の手段として、それら文や文章、談話の形にまとめているのである。「語彙」とは、このための文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。 この講義では、日常的な平易な用例を中心に、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙についていろいろ方面から考えたい。	[講義計画] 1. 単語と語彙 1) 単語の性質 2) 単語の形と意味 3) 単語の種類 2. 語彙 1) 語彙の構成 2) 語彙(単語の分類) 3. 造語法 1) 造語法 2) 造語による語彙変化 4. 語彙の体系 1) 意味の関係(上下, 類義, 対義) 2) 意味の变化 3) 比喩 4) 熟語			
[成績評価の方法] 定期試験(半期科目があるので、前期1回)により評価する。 詳しくは、授業初めに説明する。	[参考文献] 津野百合子(著)『新編 日本語教育ハンドブック⑤ 語彙』(国際交流基金/Rinsen)			
[教科書] 森田良行・村本新次郎・相沢正夫(編)『ケーススタディ・日本語の語彙』(おうふう(桜楓社))				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文字・表記論		後 期	2 単位	藤 原 健
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>言語は、音と媒体としての音声言語と、文字と媒体としての文字言語とに大別でき、この講義では、このうちの後者の媒体と成る文字について、日本語の場合を扱う。</p> <p>日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたも複雑である。外国人の日本語学習者にとって日本語の文字・表記は理解が「大変」、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から実際の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、授業に際して注意しなくてはならない点などを考えたい。</p> <p>1年次に「論述作文」を履修した人も多いと思うが、日本語を「表記する」という点からは異なる概念に思われる。学部・専攻に関係なく、日本語に興味・関心のある学生の受講を歓迎する。</p>	<p>1. 日本語の表記法と基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 漢字の表記法 (「常用漢字表」) 2) ひらがなの表記法 (「改定標準仮名遣い」) 3) かながなの表記法 (「外来語の表記」) 4) 送りかなの付けかた 5) ローマ字の標頭と表記法 <p>2. 文字に関する知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 漢字 (六書、部首、画数、字彙等) 2) かな 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>定期試験(半期科目であるので、後期1回)により評価する。 詳しくは、授業初めに説明する。</p>	<p>国立国語研究所(編)『日本語教育指導者養成 14 文字・表記の教育』(大蔵省印刷局)</p>			
[教科書]				
<p>富田隆行・真田和子(共著)『教師用日本語教育テキスト②新・表記』(国際交流基金/Rinsen)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法 I		通 期	4 単位	有 川 康 二
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>どんな教授法(教え方の哲学や方法)にも、どんな教科書にも各々長所と短所がある。要は様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、実践的な文法導入と練習方法についての議論やシミュレーションを行う。</p> <p>初級文法は日本語学習者にとって継続学習の基礎となるもので責任も重い。一定の制限された状況や時間内に、日本語を母語としない人に日本語の体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習して「使える日本語」を身につけてもらう為には、教える側に特別な知識と技術が必要となる。</p> <p>「何故、自分は外国語を学ぶのか。何故、自分は日本語を外国語として教えるのか。」といった日本語教育哲学に通ずるような問題意識も持ってほしい。</p>	<p><前期> 初級文法項目解説、及び、練習方法の検討</p> <p><後期> 初級文法項目解説、及び、練習方法の検討</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>出席・筆記試験</p>	<p>三浦昭『初級ドリルの作り方』(凡人社)</p>			
[教科書]				
<p>東京 YMCA 日本語学校(編)『入門日本語教授法』(創拓社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅱ	01	前 期	2単位	友 沢 昭 江
	02	後 期	2単位	
[講義概要・学習目標] 日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。 本講では、市販されている教科書を分析するとともに、自らも教材を作成します。授業は、前半は講義形式で行い、後半はグループに分かれて自分達想定する学習者を対象とした教材開発を行います。	[講義計画] 前半は、様々な市販の教材の構成を研究します。後半はグループで教材を作成します（基本プランの確定、分担の決定、作業の進捗状況の報告、作成教材を提示し、クラスで評価を行います）。			
[成績評価の方法] 講義内容に関する小テストを数回行います。後半のグループ作業の途中経過の報告、最終的な教材の提示、クラスでの評価を総合して全体の評価を行います。半期（13回）の授業なので、基本的に全回出席した人を評価の対象とします。	[参考文献]			
[教科書] 特に指定しません。（教員により配付されるプリント等を使用します。）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅲ		通 期	2単位	友 沢 昭 江
[講義概要・学習目標] 本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を総合して、実際の教育の場面で学習者とのようなインターアクションを行うかという、実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに効果的に提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題をどのように処理するかを、実際の授業形態の中で学びます。そのため、日本語教授法Ⅰおよび日本語教授法Ⅱを終了した人に基本的に受講を認めます。	[講義計画] <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見ること等を通して比較検討します。 ・グループに分かれて、基本的な教授内容をいかに実際の教育現場で教えるかを研究し、発表します。 ・グループ単位で、実際の授業を組み立て、模擬授業として発表します。 ・留学生とチームを組んで、共同プロジェクトを行います。 ・実際の日本語授業を見学したり、夏期休暇中には学外での教育実習を行います。 			
[成績評価の方法] <ul style="list-style-type: none"> ・学期初めにノートを作り、毎回の授業の内容をまとめる外、適宜出される課題もそこに書き込み、一月間に一回程度の割合でノートを提出してもらい、それを出欠材料として判断します。 ・グループ単位で行う作業は、クラス内での相互評価を行います。 	[参考文献] 『日本語教育論集』（吉田彌壽夫監修、学研） 『概説日本語教育』（遠藤織枝編、三修社） 『日本語教授法』（石田敏子、大修館書店） 『実践日本語教授法』（名柄迪監修、中西家栄子他、バベルボックス） 『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』（名柄迪他、アルク） 『日本語教育への道』（土岐哲他、凡人社） 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』（石橋玲子、凡人社）			
[教科書] 教員の用意するファイルを使います。				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
博物館実習Ⅲ		集中コース	1 単位	松永俊男
[講義概要・学習目標] 指定した博物館で5日間程度の館務実習を行う。実習先の博物館としては、高野山霊宝館、トヨタ博物館、産業技術記念館、ガス科学館、交通科学博物館、および堺市博物館を予定している。		[講義計画] 4月のガイダンス時に、各人の実習博物館の指定を行う。実習は夏期休暇中に行われるが、その具体的日時や実習内容は、博物館によって大幅に異なる。		
[成績評価の方法] 実習館の評価表と実習ノートに基づいて行う。		[参考文献]		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業考古学		通 期	4 単位	並 川 宏 彦
[講義概要・学習目標] 産業考古学は、1955年に考古学として正式に確立された学問である。近年、産業革命の進展に伴って、産業の発展と技術の進歩が著しく、産業の歴史や文化の重要性が認識されるようになった。産業考古学は、産業の歴史や文化を明らかにし、産業の発展と技術の進歩を研究する学問である。産業考古学は、産業の歴史や文化を明らかにし、産業の発展と技術の進歩を研究する学問である。		[講義計画] 産業考古学の基礎知識を習得し、産業の歴史や文化を研究する。産業考古学の基礎知識を習得し、産業の歴史や文化を研究する。		
[成績評価の方法] レポートの提出を課す。期末に試験をする。試験の点数とレポートの評価で成績をつける。		[参考文献] 産業記念物調査研究会 「近畿の産業博物館」 阿吽社		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東洋美術史		通 期	4 単位	林 宏 作
<p>[講義概要・学習目標] 美術の範疇は、絵画・彫塑・建築・工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。 この講義は、古代から近代までの中国絵画を概観し、各時代の特質および有名な画家を紹介する。特に本年度は、特に「揚州八怪」の絵画をとり上げ、清朝絵画史における揚州八怪の位置やその先駆をなす石涛・八大山人等との関係、さらに四王吳惲との比較を論じてみたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 中国絵画の流れ ② 揚州八怪について ③ 個性的な明遺民画家—石涛・八大山人 ④ 正統派の画家—四王吳惲 			
<p>[成績評価の方法] 授業出席のありさ・授業への参加態度・レポート・期末テスト等による総合評価</p>	<p>[参考文献]</p> <p>王耀庭(著)「中国絵画のみかた」(ニ玄社) マイケル・サリバン(著)・新藤武弘(訳)「中国美術史」(新潮社) 俞劍華(著)「中国絵画史」(商務印書館)</p>			
<p>[教科書]</p>				

「演習」研究テーマ・使用教科書一覧

(演習4)

担当者	研究テーマ	使用教科書
〈経済学部〉		
安藤洋美	偶然性の考え方について	福場庸（著）『意思決定論の基礎』 (現代数学社)
伊代田光彦	日本経済分析	経済企画庁（編）『経済白書（平成8年版）』 (大蔵省印刷局)
上野勝男	資本主義と社会主義	F.エンゲルス（著）大月センチュリーズ 『空想から科学へ』（大月書店） (国民文庫版ではないので注意すること)
梅本哲世	戦後日本経済の歴史的研究	
桂昭政	データから見た日本経済	小峰隆夫（著）『経済データの読み方 第2版』 (日本評論社) 藤岡・渡辺（著）『テキスト国民経済学』 (大蔵省印刷局)
木村二郎	日本経済学の構造変化とシステムの再構築	第1回の演習までに、使用テキストを決定するので、各自生協で入手したうえで参加すること。
熊谷次郎	欲望、稀少性、資本主義—思想史的アプローチ—	クセノス（著）北村和夫・北村三子（訳） 『稀少性と欲望の近代』（新曜社）
巖善平	アジア経済の成長と開発経済学	速見祐次郎（著）『開発経済学』（創文社）
芝村篤樹	都市について考える	その都度指定する。
庄谷邦幸	日本の産業構造変化と地域経済・中小企業	小野五郎（著）『産業構造入門』 (日経文庫／日本経済新聞社)
滝田和夫	世界大恐慌の研究	林敏彦（著）『大恐慌のアメリカ』 (岩波新書)
竹歳一紀	食料・資源・環境をめぐる諸問題	森島賢他（著）『世界は飢えるか：食料需給 長期展望の検証』（農山漁村文化協会）
竹原憲雄	高齢化と国際化と分権化の政策分析	
津田和夫	日本の金融システム	岡部光明（編）『実践ゼミナール 日本の金融』 (東洋経済新報社 1996年10月発行)
津田直則	21世紀に向けての社会と経済	

担当者	研究テーマ	使用教科書
西川 憲二	日本経済の今後	田中直毅（著）『新しい産業社会の構想』 （日本経済新聞社）
野田 知彦	日本企業の経済学	追って指示する。
濱田 博男	現代資本主義の研究	日本経済新聞社（編）『ゼミナール・日本経済入門（最新版）』（日本経済新聞社）
蒔谷 硯児	平成金融不況と構造改革	鈴木淑夫（著）『円デフレとドルインフレ』 （東洋経済新報社 1995）
前田 治郎	現代のヨーロッパ経済	
前田 徹生	現代憲法の諸問題	向井久了（編）『事例で考える憲法』 （青林書院）
松尾 純	戦後日本の経済と社会	
三邊 信夫	国際経済学の理論研究	渡辺太郎（著）『国際経済』（春秋社）
モグベル ザファル	近代経済学再入門	P.サムエルソン（著）『経済学・上』 （岩波書店）
望月 和彦	日本社会を知る	K.V.ウォルフレン（著）『日本権力構造の謎（上・下）』（ハヤカワ文庫） 山本七平（著）『日本人とは何か（上・下）』 （PHP文庫）
矢根 眞二	規制緩和の経済学	
〈社会学部〉		
上田 修	日本の企業・世界の企業：働き方・処遇の社会的考察	その都度、指示する。
上野谷 加代子	地域福祉方法論研究	授業時指定する。
大谷 信介	友人ネットワークの社会的研究	大谷信介（著）『現代都市住民のパーソナル・ネットワーク』（ミネルヴァ書房）
小川 登	社会保障の研究	福祉養成講座編集委員会（編） 『社会保障論』（中央法規出版） 厚生省（編）『厚生白書（平成9年版）』 （ぎょうせい） 島田とみこ（著）『年金入門（新版）』 （岩波新書）

担当者	研究テーマ	使用教科書
軽部 恵子	国際社会を見る目	横田洋三（編）『国際法』（有斐閣）1996年 国連広報局『国際連合の基礎知識』 （世界の動き社）1995年
北川 紀男	高齢化社会・文化的インパクト ～現代文化の理解に向けて～	
北野 誠一	障害者と高齢者の地域での自立生活をどう支援するのか	ゼミ期間中、適宜指示する。
木下 栄二	「家族」現象からみる現代日本	
小西 加保留	医療分野におけるソーシャルワーク方法論	前田ケイ（監修）保健医療の専門ソーシャルワーク研究会（編） 『保健医療の専門ソーシャルワーク』 （中央法規）
清水 由文	「食」の社会学	
鈴木 富久	現代社会と人間	井上・谷口・林（編） 『転換期と社会学の理論』（法律文化社） 小林・大関・鈴木・竹内・伊藤（共著）『人間再生の社会理論』（創風社）
鈴木 博信	ロシアをよむ	『日本経済新聞』 数冊の古典やロシアにかんする書物あわせて 10冊前後は、できれば共同購入の予定。
瀧澤 仁唱	現代日本の社会福祉法制と権利	授業中指示する。
竹内 真澄	自我・コミュニケーション・社会	
中村 秀之	現代社会における（マス・）メディアと文化	別途指示する。
西川 一廉	余暇から働くことを考える	追って指示する。
沼田 健哉	日本人の深層心理－心理学と文学の接点を求めて－	河合隼雄（著）『河合隼雄全対話Ⅱ－ユング心理学と東洋思想－』（第三文明社） 福島章（著）『不思議の国の宮沢賢治－天才の見た世界－』（日本教文社）
松本 眞一	児童福祉と少年非行	松本眞一（著）『児童福祉論』（相川書房） 松本眞一（著）『少年保護と児童福祉』 （相川書房） 松本眞一（編）『非行学入門』（相川書房）
宮本 孝二	現代日本社会の諸トレンド	
森本 良男	現代世界構造の変動と情報化	

担当者	研究テーマ	使用教科書
〈経営学部〉		
明石吉三	企業等組織における情報システムの役割と将来方向	
井上義祐	企業と経営情報システム	秋山哲夫（著）『実践経営情報システム』（中央経済社） その他、随時プリントを配布する。
今木秀和	企業分析	後日指示する。
岡崎守男	現代の企業と金融・証券市場	日本証券業協会（編）『証券外務員必携（全4冊）』（日本証券業協会）
鬼塚光政	現代生産システムの動向－トヨタの生産方式についての考察	門田安弘（著）『新トヨタ・システム』（講談社） ※他は追って指示する。
面地豊	日本経営史	『日本経営史（講座）』全8巻（岩波書店）
岸本裕一	経済のグローバル化に伴う流通経済をめぐる諸問題の実証的研究	必要が生じた段階で指示する。
佐々木宏	パソコンを使った経営コンサルティング	林總（著）『経営コンサルティングという仕事』（ぺりかん社）
鈴木幾多郎	ベンチャー・ビジネスとマーケティング	柳孝一・山本孝夫（著）『ベンチャー・マネジメントの変革』（日本経済新聞社） 松田修一（編）『ベンチャー企業の経営と支援』（日本経済新聞社）
徐 ^{ヨン} 龍 ^ダ	財務諸表の読み方を学ぶ	武田隆二（著）『会計』（税務経理協会）
武田久義	保険と保障の将来	前川寛（著）『現代保険論入門』（中央経済社）
谷口照三	環境指向経営の実態と課題	
全 ^{ジョン} 在 ^{ジュ} 紋 ^{ムン}	ビジネス・ゲームを通しての経営財務感覚の錬磨	協和醸酵（著）『人事屋が書いた経理の本』（ソーテック社）
中田信正	会計学と実践財務諸表分析	飯野利夫（著）『財務会計論（三訂版）』（同文館） ※中田信正（編）セミナー資料：入門バランスシートの読み方（1997年3月期決算）（大阪簿記会計学協会）（配布予定） ※資料は自分で用意する。
野田俊範	現代企業社会システムの研究	適宜指示する。

担当者	研究テーマ	使用教科書
長谷川 彰	日本の企業を考える	由井常彦（編）『革新の経営史』（有斐閣）
バク 朴 テ 大 ヨシ 栄	財務会計と監査	
堀 友 章	財務会計と財務分析	
〈学部共通〉		
種 田 明	現代のヨーロッパ、中世のヨーロッパ	原輝史・工藤章（編）『現代ヨーロッパ経済史』 （有斐閣 1996） 堀米庸三（著）『中世の光と影（上）』 （講談社学術文庫 1978）
小 池 誠	現代東南アジアの社会と文化	宮崎・山下・伊藤（編）『アジア読本 インドネシア』（河出書房新社）
志保田 務	公共図書館の歴史と未来	『中小都市における公共図書館の運営』 （日本図書館協会）
滝 澤 武 人	チャップリンとその時代	チャップリン（著）『自伝（上・下）』 （新潮文庫）
竹 中 暉 雄	現代「教育」の諸問題	
藤 間 真	社会現象の数理	
生 瀬 克 己	日本の近代＝工業社会はいかにしてできたか	トマス・C・スミス（著）大島真理夫（訳） 『日本社会史における伝統と創造－工業化の 内在的諸要因1750～1920』（ミネルヴァ書房）
林 陸 雄	社会科の教材研究『アジアをどう教えるか』	授業の中で、指示する。

「英語 IR」 クラス概要一覧

クラス	担当者	クラス指標	著者名	使用教科書	出版社
01	大橋 襄	思想・科学	John Randle Lisa Gerard-Sharp Yasuo Yagi	<i>GLOBAL ISSUES TODAY</i> よりよい世界のために	成美堂
02	萩原直之	ビデオ教材 (ただし、テキストとカ セットテープのみを利用)	Leonard P.Sanders 長谷川 潔 秋山 高二	<i>Asia Now</i>	成美堂
03	三宅 亨	その他	Forsythe & Naruke	<i>Listen Up !</i>	三修社

「英語Ⅱ」クラス概要一覧

クラス	担当者	クラス指標	著者名	使用教科書	出版社
01	大川愛子	総合英語	Ian Bruce	<i>Time to Talk</i>	Macmillan Language House
02	大川愛子	総合英語	Ian Bruce	<i>Time to Talk</i>	Macmillan Language House
03	平井明代	Reading & Writing	城田紀子 他2人	<i>Business Talk</i>	成美堂
04	吉田澄子	総合英語	Todd Jay Leonard	<i>Talk, Talk : American-Style</i>	Macmillan Language House

「英語Ⅲ」クラス概要一覧

クラス	担当者	クラス指標	著者名	使用教科書	出版社
01	岩永道子	総合英語 (ビデオ教材)	Hiroto Ohyagi Timothy Kiggell	<i>Viva San Francisco</i>	Macmillan Language House
02	大川愛子	講読 (思想)	Leo Buscaglia	<i>Living, Loving & Learning</i>	朝日出版社
03	沖野泰子	総合英語	土屋武久 狩野紀子 Braven Smillie 根間弘海	<i>Reading Navigator</i> <i>Your Ear for English</i>	三修社 金星堂
04	木村博是	講読 (言語)	J.Allsop	<i>Very Short Stories of Jake Allsop</i>	開文社
05	坂本姫子	リスニングとスピー キングに重点をおく	ニール・タトル	やさしい英会話 (学生が各自で購入すること)	N H K
06	都築郷実	総合英語	Ethel Tiersky Robert Hughes 共著	<i>Morning Edition-Special Edition for Japanese Students</i>	Macmillan Language House
07	堀内真由美	総合英語		開講時に指示する。	
08	三宅敦子	総合英語	John Randle Tomizo Shobo	<i>Style in Britain</i> イギリスの伝統と新しい文化	成美堂
09	萬戸克憲	総合英語	N.Stanley 他	<i>Think in English 1</i>	Macmillan Language House
10	佐々木英哲	講読 (時事英語)	中村憲明	<i>Newspaper English</i> 英文ニュース入門	成美堂

「英語演習」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
〈文法〉					
01	長谷川 存 古	英語英米	柿本文哉 他	大学生のための基本英文法	南 雲 堂
05	高 見 有 彦	国際文化	稲毛逸郎 田中彰一 西原俊明 藤岡克則	コミュニケーションのための 発信型英文法	松 柏 社
〈講読 I A〉					
01	三 宅 敦 子	英語英米	Michael Vaughan-Rees	<i>In Britain : New Edition</i>	Macmillan Language House
05	太 原 康 雄	国際文化	宍戸 真 Bruce Allen	<i>Discovering the East Coast, USA</i>	成 美 堂
〈講読 I B〉					
01	岩 永 道 子	英語英米	Shigeru Nakahata Joseph Benson	<i>The Internet In English</i>	南 雲 堂
05	大 橋 襄	国際文化	Wallace Gagne	<i>JAPAN AND THE WORLD PRESENT AND FUTURE</i>	Macmillan Language House
〈作文 I〉					
01	杉 田 トモ子	英語英米	Richard H.Schaepe 河合忠仁 三浦良邦	『 <i>Let's Read, Think and Write</i> 』	松 柏 社
05	和 栗 了	国際文化	柿本文哉 他	<i>A New Approach to College English.</i>	南 雲 堂
〈会話 I〉					
01	David T.VanHam	英語英米	Jack C.Richards	<i>INTERCHANGE STUDENT'S BOOK 1</i>	Cambridge University Press
05	Ronald Cline	国際文化			

「英語演習」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
〈講読ⅡA〉					
01	堀内 真由美	英語英米	Joan McConnell	<i>Women and Men for a Better World</i>	成美堂
05	近藤 撰子	国際文化	安田哲夫 松田徳一郎	<i>Current English</i> -1998/99 Edition-	成美堂
〈講読ⅡB〉					
01	奥田 隆一	英語英米	Michael Mobbs	<i>Everyone Speaks Differently</i>	英宝社
05	和栗 了	国際文化	P.Gerber	<i>The Growth of English</i>	成美堂
〈作文Ⅱ〉					
01	Carlquist L.Harris	英語英米		使用しない	
05	Carlquist L.Harris	国際文化		使用しない	
〈会話Ⅱ〉					
01	David T.VanHam	英語英米	Jack C.Richards	<i>INTERCHANGE</i> <i>STUDENT'S BOOK 2</i>	Cambridge University Press
51	Ronald Cline	国際文化			
52	Reid Neufer	国際文化	Peploe,Mark Bertolucci,Bernardo	<i>The Last Emperor</i>	フォーインクリエイ ティブプロダクツ

「演習」研究テーマ・使用教科書一覧

「英語英米文学科」

(英語学演習)

担当者	研究テーマ	使用教科書
〔4年次〕		
Kevin R. Gregg	言語獲得論Ⅱ	
三宅 亨	現代英語の文法と語法Ⅱ	S.Greenbaum & R.Quirk (著)『 <i>A Student's Grammar of the English Language</i> 』 (Longman)

(英米文学演習)

担当者	研究テーマ	使用教科書
〔4年次〕		
石塚 浩司	アメリカ文学を読むⅡ	
中村 祥子	ブロンテイギリス小説の世界Ⅱ	授業中に指示する

(応用英語演習)

担当者	研究テーマ	使用教科書
〔4年次〕		
島田 勝正	英語科教育の指導と評価Ⅱ	J.B.HEATON (著)『 <i>Writing English Language Tests</i> 』 (Longman)
Raoul Cervantes	Narrative PsychologyⅡ	Raymond Carver (著)『 <i>Where I'm calling from</i> 』 (VINTAGE) Charloite Linoe (著)『 <i>Life Stories</i> 』 (OXFORD)

「演習」研究テーマ・使用教科書一覧

「国際文化学科」

(比較文化演習)

クラス	担当者	研究テーマ	使用教科書
01	井本英一	釈迦伝の成立	井本英一(著)『死と再生』(人文書院)
02	原山 煌	伝統的中国世界とその周辺	宮崎市定(著)『中国史(上)(下)』(岩波全書)
03	坂 昌 樹	「ヨーロッパ社会」の現在	梶田孝道(著)『統合と分裂のヨーロッパ-EC・国家・民族-』(岩波新書)
04	深澤 徹	「日本文化論」という言説	ルース・ベネディクト(著)『菊と刀』(文庫)
05	深見純生	インドネシアの多様な社会・文化と国民国家	綾部恒夫(著)石井米雄(編)『もっと知りたいインドネシア』(弘文堂)

(言語文化演習)

クラス	担当者	研究テーマ	使用教科書
01	国松夏紀	蘇るか?ロシア、その歴史と文化	外川継男(著)『ロシアとソ連邦』(講談社学術文庫)
02	高田里恵子	ヨーロッパの中のドイツ・アジアの中の日本	
03	藤澤道郎	イタリア文化の歴史的研究	藤澤道郎(著)『ミシュラン・ガイド-イタリア』(実業之日本社) 『物語イタリアの歴史』(中公文庫)
04	藤森かよ子	Multiculturalismとアメリカ合衆国	授業中に指示あり。
05	山川偉也	ヘレニズム世界の探求	山川偉也(著)『古代ギリシアの思想』(講談社学術文庫)